

公債費負担適正化計画の検証について

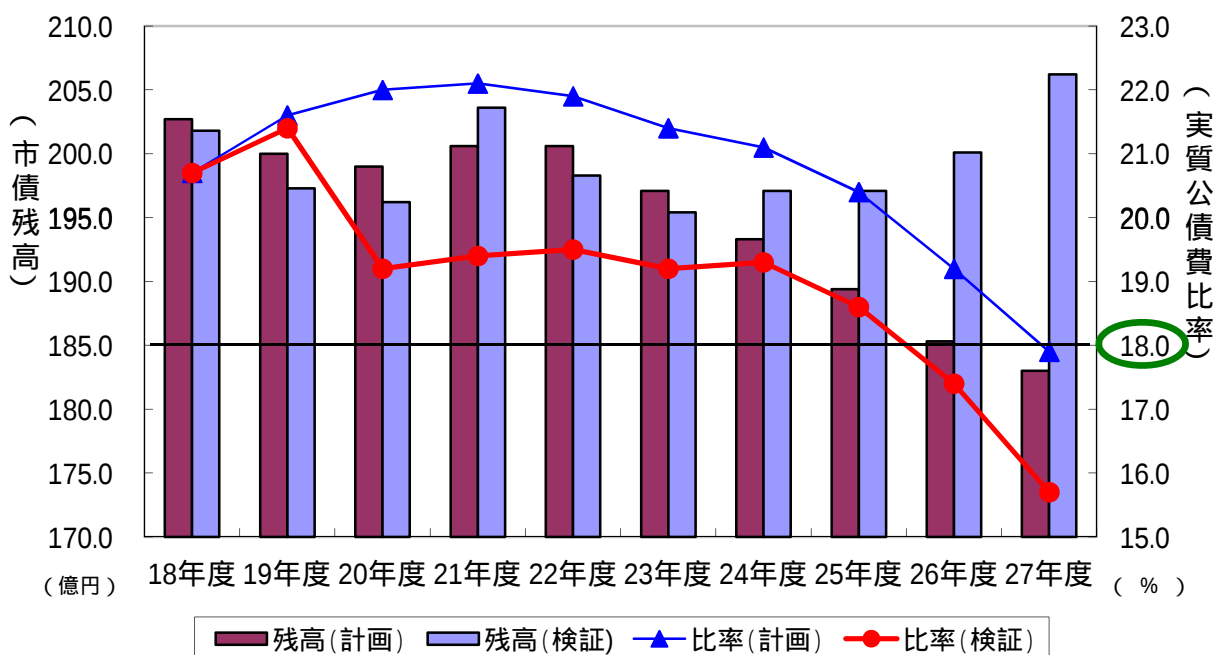
実質公債費比率18%台に低下

牧之原市は、収入に対する負債の返済の程度を示す“実質公債費比率”が県内自治体で最も高く、厳しい財政状況であったため、平成18年度に「公債費負担適正化計画」を策定し、財政健全化に取り組んできました。計画の内容は、起債額（借金）を抑制することなどにより、計画の10年目に当たる平成27年度までに、実質公債費比率を18%未満にするというものです。

このたび、平成24年度決算が確定し、実質公債費比率は、初めて19%を切って **18.6%** になりました。

なお、平成25年度決算では、目標を1年前倒して達成する **17.4%** と見込んでいます。

1 市債残高と実質公債費比率の推移



実質公債費比率は、当年度を含めず前3年の平均である。

2 実質公債費比率の状況

(単位：%)

年 度		18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
単 年 度	計画	22.0	22.6	21.7	21.4	21.1	20.8	19.4	17.4	17.0	15.0
	検証	19.5	19.9	18.7	20.0	19.0	18.9	17.8	15.4	13.9	10.6
前3年の平均	計画	20.7	21.6	22.0	22.1	21.9	21.4	21.1	20.4	19.2	17.9
	検証	20.7	21.4	19.2	19.4	19.5	19.2	19.3	18.6	17.4	15.7

19年度決算より都市計画税が控除財源として算入された。